



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

新年のご挨拶 大原綜合病院 理事長 平子 健



あけましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になり、ありがとうございました。今年も皆様のお役にたつ医療機関として努力いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

先生方とともに歩む大原綜合病院は、今まさに新病院造りのスタートを切ろうとしています。

今年には新病院建設に加え、医師増員、看護師増員に本格的に取り組み、先生方に信頼される医療機関としての基礎作りをしっかりとやってゆきます。私たちのビジョン「メディカルスタッフが相互に敬意を払い、働き甲斐のある病院を作る」を実践していきたいと思ひます。

特に、人材育成に力を入れ職員のレベルアップを図り先生方の信頼に応えるべく努力してまいります。

今年には、災害からの復興の最重要年度となり本格的な行動が広がるものと思ひます。

私達は、福島市復興のシンボルは大原綜合病院の新築にあると考え、地域の方々と連携し医療環境としても街作りとしても福島市の発展に寄与できる施設整備に取り組みたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、先生方のご健勝をご祈念申し上げますとともに、大原綜合病院に対し特段の御支援を賜りませうお願ひ申し上げます新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶 大原綜合病院 副理事長兼統括院長 佐藤 勝彦



皆様には本年も良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、当院にとっては自立の年。診療の質向上や経営機構の強化などを目的として、外部から役員を招聘し、ガバナンスの枠組みを整えることができました。地域連携については、前方と後方の連携機能の統合を目指し「地域連携相談室」として強化を行いました。

その結果、登録医が増加し、患者紹介率は65%以上を維持して新入院患者数は過去最高を記録、逆紹介率も50%を越え、地域の皆様と当院との連携が密になってきたことを実感できる年でもありました。

本年は、3年後に迫る新病院の開院に向けて充実を図る年になります。何事にも恐れずに、挑戦したいと決意を新たにしています。診療機能については、昨年から取り組んでいるQI (Quality Indicator : 医療の質を評価する目安となる指標) による評価を行い、3年目を迎えたTQM活動 (Total Quality Management) も併せて、全国のトップレベルを目指して「医療の質」改善活動を行ってまいります。

また、院内では入院前から後方連携を見据えてシームレスに患者ケアができるPFM (Patient Flow Management) を導入し、一方では将来の地域包括ケアシステムの構築に備えて、さらなる地域連携をすすめて参ります。

我々の活動状況は、病院ホームページにある病院公式Facebookで随時発信していますのでご覧ください。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新年のご挨拶 大原綜合病院 総看護部長 高橋 理恵子



あけまして おめでとうございます。

登録医の先生方には日頃より、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今年は、大原綜合病院にとっては、念願の新病院建設が着工される年でもあります。

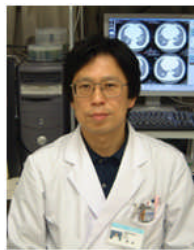
看護部も質の高い看護ケアが提供できるよう、また入院が必要な「患者さんを断らない」方針でベッドコントロールを組織で取り組んでいます。医療とは従来、生活にとって身近なものであり、また本来は病気やけがの人を治療し、元のように生活できるように戻す、あるいはできるだけ元の生活に近い生活になるように支えることです。

しかし、近年医療の進歩の陰で医療依存度が高まると同時に人間の生死が生活から分断されてしまい、その一方で高齢化に伴い治らない病気の患者が増えてきているのが現状です。当院でも入院時より退院を見据えた関わりを実践しており、入院時や手術後にADLが低下しないよう早期のリハビリ介入、生活面のハイリスク患者さんには、地域連携相談室と情報を共有しながら、患者さん家族を含めた退院支援を行っています。

住みやすい地域づくりを地域包括支援事業所、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、回復期リハビリ病院、介護施設等と相互連携をはかりながら、2025年問題、急速な高齢化時代に向けて医療的立場で取り組むことが実現できればと考えています。紹介は積極的に受け、ある程度回復すれば地域の先生方にご紹介していますので、登録医の先生方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

新年のご挨拶 大原綜合病院 副院長 地域連携相談室管理者 森谷 浩史

新年あけましておめでとうございます。



「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の五つのサービスを一体的にとらえる地域包括ケアシステムが各方面で検討されております。なかなか全体像がイメージできずにいますが、本年は否応なく、この地域包括ケアシステムの視点から病院機能を考えなければいけないようです。

昨年、大原綜合病院では、先生方からの紹介窓口である地域連携室と入院患者の退院にかかわる医療相談室を一つの組織とすることで、入院から退院までスムーズに対応できるよう体制を整えました。地域包括ケアシステムをほんの少し意識した組織変更です。ぜひご活用ください。

特に、地域連携相談室は先生方と直接接する部門ですので、face to faceの対応ができなければ個々の職員の成長もありません。ぜひ、先生方のご施設の職員同様に気軽にお声をかけていただきますよう、お願い申し上げます。

ひとりひとりの患者さまに愚直に対応していくことこそ東北医療圏における大原綜合病院の機能の具現に他ならないと意識し、本年も顔の見える連携を粛々と続ける所存であります。ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

新年明けましておめでとうございます。

登録医の先生方ならびに関係者の皆様には、本年も円滑な連携、顔の見える連携、そして心のこもった連携を心掛けていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

大原綜合病院 大原医療センター 地域連携相談室 一同

